

図書館だより

目次

ラーニング・コモنزの活用	——平館 英子	1
日本女子大学叢書の紹介『萬葉悲別歌の意匠』	——平館 英子	2
図書館相互利用協定の今	——中澤 恵子	3
「学生が読みたい本」のご紹介	——中澤 啓子 吉原 三紀子	4
玄関ホール展示「広岡浅子と日本女子大学」について	——浜口 都紀	5
日本女子大学学術情報リポジトリの今	——浜口 都紀	6
図書館（目白）4階新スペース（ラーニング・コモنز）のご案内	——浜口 都紀	7
平成27年度夏期スクーリング開館について	——中澤 啓子	8



上代タノ平和文庫銘板と上代先生肖像写真

ラーニング・コモنزの活用

平館 英子

今秋、泉会の支援によって、目白地区図書館の4階南側にラーニング・コモنزが実験的に開設される。創立120周年記念のキャンパス構想の一環として新図書館建設が計画されているが、そこに付設される可能性の高いラーニング・コモنزへの準備としての意図もある。ラーニング・コモنزという学習（学修を含む）空間が各大学に設置されるようになったのは、この10年余の間のことであるが、その数は飛躍的に伸びている。その背景に、学士課程教育の質的転換、特に能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換の促進がある（科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」、2013年8月）。

学習環境としてのラーニング・コモنزのあり方は、各大学において多様である。しかし、学習空間という見地から、図書館に直結する利便性は特筆されよう。図書館の従来の印刷情報資源とWiFi機能を備える事による電子情報資源との一元的な活用が期待できるからである。そこに図書館員などによる情報検索案内を含む人的支援の提供と、可動式の机や椅子・多様な電子機器の設置とによって、自由な発想で学習環境を創造する空間が広がり、学生たちに自主的な学習を促す空間形成が期待される。一方で、静謐な空間に居場所を求める学生も少なくない。図書館の静謐な空間とラーニング・コモنزが目指す協同学習の能動的な空間とは、いずれも現代の多様な学習内容、多様な学習者の質に対応する重要な要素である。直結しつつ、住み分ける構成が望ましいが、今回は実験的に、まず目白地区の図書館内に設けている。泉会のご支援に感謝申し上げたい。

本学の両図書館には、創立者成瀬仁蔵の提唱する「自学自動」の精神とそれを継承した目白地区図書館設立時の上代タノ元学長の意志を受けて、共同研究室を設置し、協同学習の空間を設けてきた伝統がある。ラーニング・コモنزでの協同学習は、オープン・スペースの可動式空間で行われる。他の学習者と、お互いに「見る」「見られる」関係を構築し、狭い専門分野に偏らない刺激的な空間を創出するためである。その活用のあり方はあくまでも学習者の主体的な利用にある。

元図書館長で図書館情報学の権威でもいらした故田中功先生は『図書館だより』No.132（2008）で、自宅と職場の間にある「第3の場所」の提唱（Ray Oldenburg『The Great Good Place』1989）を踏まえて、「第3の場所」としての大学図書館づくりを促された。ラーニング・コモنزの実験的開設は、学生達の多様な学習を支える「第3の場所」としての図書館づくりにも繋がっている。

平館英子著『萬葉悲別歌の意匠』（日本女子大学叢書17）

平館 英子

本書は日本上代文学における生別離を扱った論文集である。現存する最古の歌集である『萬葉集』二十巻は、作品をまず儀礼的要素を主とする雑歌、恋の歌を中心とする相聞、そして死に関する挽歌という三種の部立てで区分する。が、巻十二には「羈旅発思歌」「悲別歌」という部立ても見える。死別を扱う挽歌は当時の死生観とも関係して、様々に研究されてきており、死に対する古代の人々の把握とその表現方法の展開は、葬歌から挽歌そして哀傷へという質の変化と共にほぼ跡づけられている。一方、「羈旅発思歌」「悲別歌」に生別離への理解が窺え、個々の作品の分析はなされてきているものの、生別離という視点で作品の表現方法の展開を取り上げることは従来されて来っていない。

日本の上代文学に大きな影響を与えている中国詩で、生別離という把握は早くに『楚辞』（少司命）に「悲莫_レ悲_ニ兮生別離_一 楽莫_レ楽_ニ兮新相知_一」とあり、六朝時代には望郷を詠じる離別詩として定着している。後の『古今和歌集』には「羈旅歌」「離別歌」という部立てが見えるが、『萬葉集』には、「離別」という部立てはない。部立てとしてある「悲別」は、その熟字に恵まれず、和習の語と推測される。生別離を対象とする文学作品について、第一章では神話における別離に対する把握から『萬葉集』巻二の石見相聞歌までの展開を考察し、第二章では『萬葉集』巻十五の前半部を占める「遣新羅使人歌群」から「悲別歌」までを考察している。

最初に、火遠理命と豊玉毘売の神話を扱った。神話に見える異界との交渉は、結果として別離を生じ、別離は「別れ」の儀礼と共に、住む世界を異にすることとして把握される。異界との別離という把握は、上代文学における生別離の発想の基層を形成するものであり、生別離は、距離的な遠さのみならず、住む世界を異にして、再会がかなわないままに相手への思慕を表明するという独自の表現世界を形成してゆくことを論じている。すなわち、異界へ去るという把握は、異郷へ去るという把握に継承されて、生別離を詠う作品の基層を形成し、奈良朝の作品、『萬葉集』の「悲別歌」における表現の展開にまで及んでいる。『古事記』の説話、仁徳記の吉備黒日売訪問譚では、異界へ去るという発想を窺わせつつ、別離は相手の存在が「見えず」になることとして把握される。「見えず」は不在を意味するのではなく、見えないけれども存在するという把握である。しかし、『萬葉集』巻二の石見相聞歌では、都から訪れた「我」が妻を置いて都へと去って行く過程を詠み、見えない妻の姿が、異界へ去るという神話的発想を推測させることで、やがて妻の不在がその地における存在の不安へと変化することを論じた。石見相聞歌は壬申の乱以降の律令体制の整備によって生じた、地方赴任という新たな「別れ」を題材にしている。また、『萬葉集』巻十五の半ばを占める、天平八年（七三六）における「遣新羅使人歌群」も公的任務を帯びた別離である。遣新羅使人たちは、意識の根底に公的任務への情熱を抱きつつも、その別離では望郷へ私的な心情を様々な表現手法で表明し、対馬に至る旅程を構想する。

奈良朝において、律令体制が生んだ生別離という主題は、神話における別離で強調された「別れ」の儀礼性の欠如が生じることまでもが詠むようになる。「別れを悲しむ歌」が詠まれる一方で、儀礼性の欠如は「別れを悲しむ」ことのできない「別れ」の悲しさを把握させ、さらに放り行く相手との時間的距離的な遠さが心理的な遠さに転じてゆく様を表現する。その意匠の展開を論じた。そこに離別詩が詠じる望郷の悲しさとは異なり、「別れを悲しめない悲しい別れ」という「悲別」の把握が窺え、上代日本文学における固有の把握であることを明らかにした。

(日本文学教授)

2015年3月31日発行 塙書房 vi, 344, 8p. *目白・西生田所蔵, 請求記号911.12-Tai

図書館相互利用協定の今

日本女子大学図書館は、学習院大学図書館（2009年11月1日施行）、お茶の水女子大学附属図書館（2011年11月1日施行）、跡見学園女子大学図書館（2013年11月1日施行）と図書館相互利用協定を締結している。f-Campus（5大学単位互換制度）も併せ、下表のとおり協定先の図書館を利用することができる。

	図書館相互利用協定			f-Campus（5大学単位互換制度）
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学、学習院女子大学、 立教大学、早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧、複写 圖書の貸出	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写

*詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」（<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>）参照。

各図書館相互利用協定の利用数は次のとおり推移している。

1. 学習院大学図書館との相互利用協定

年間 入館者数 *法経図書センターは2010年度から協定利用が可能となる。

利用館		年度	2009 (11月～)	2010	2011	2012	2013	2014
学習院	大学図書館		110	580	287	286	261	271
	法経図書センター		-	179	142	91	53	79
日本女子	目白		27	49	66	112	89	83
	西生田		0	0	0	1	3	1

年間 カード発行数 *法経図書センターを利用する場合も先に大学図書館で利用カードを作成。

利用館		年度	2009 (11月～)	2010	2011	2012	2013	2014
学習院	大学図書館		57	233	80	89	65	60
日本女子			14	23	28	52	35	41

年度毎に学習院大学と本学の数値を比較すると、入館者数の差に比べ、カード発行数の差は縮小傾向にある。

2. お茶の水女子大学附属図書館との相互利用協定 年間 入館者数

利用館		年度	2011 (11月～)	2012	2013	2014
お茶の水女子			20	18	28	40
日本女子	目白		14	25	38	66
	西生田		0	2	1	0

お茶の水女子大生が本学目白キャンパスを利用する傾向が見られ、全体数も順調に伸びている。

3. 跡見学園女子大学図書館との相互利用協定 年間 入館者数

利用館		年度	2013 (11月～)	2014
跡見学園女子	茗荷谷		7	4
	新座		0	0
日本女子	目白		7	8
	西生田		0	0

複数キャンパスを持つ大学図書館との初の協定であるが、まだ協定締結後の年数が浅く、文京区内での相互利用に留まっている。今後の利用拡大が期待される。

次号から、本学学生が実際に協定先図書館を利用し、その様子をレポートする。生き生きとしたそのレポートは、対象者の方々に協定利用へ誘うことと思う。（館員・協定窓口 中澤恵子）

「学生が読みたい本」のご紹介

【目白】

過去に実施した図書館利用者アンケートで、大学図書館の蔵書について「読みたい本が無い」「もっと気軽に読める本、話題の本を入れてほしい」との要望が寄せられました。大学図書館には「購入希望図書制度」があり、図書館利用者の方は「研究上」必要とする資料について随時、参考係にて希望を出すことができますが、「もっと気軽に読める本、話題の本を入れてほしい」との要望にお答えするため、この「購入希望図書制度」とは別に、「学生が読みたい本」の募集を2007年秋よりはじめました。2008年度からは年2回、春と秋に実施しています。期間は各々1週間です。応募用紙に希望図書とその理由を記入して、応募箱に投函します。目白では図書館入口、3階OPAC横の2か所に箱を設けています。

目白の「学生が読みたい本」は2階コピー機横にあります。

目白の応募傾向は断然小説が多いです。「学生が読みたい本」に寄せられた小説は、後に新聞の書評に掲載され、映画化されるものも多く、世間の注目を浴びる前の段階で目をつけている皆さんの先見の明を感じます。語学学習や資格取得の問題集、写真集もコンスタントに要望が出ます。写真集はだいたい高価なので気持ちはわかります。就職関係の本、自己啓発の図書も必ず応募されます。前期はジャーナリスト後藤健二氏の子どものための図書もありました。「長い間人に読んで欲しい」と理由がついていました。『「図解」日本刀事典』の応募には『刀女子』という言葉が浮かび、皆さんが生き生きと興味の翼を広げているのを感じました。読書習慣は小学校で身につけ、読解力を伸ばす為には、少し難しい内容の本を投げ出さず、最後まで読みきることの積み重ねが重要ようです。受験勉強から解放され、じっくり時間が取れるのも大学生時代の良さです。読書習慣を取り戻してみませんか。初めは少しずついいんです。卒論作成で膨大な資料を読む時も、隙間時間の積み重ねが重要です。娯楽としての読書は短時間でもリラックスできますし、11月は今年度後期の応募図書が「学生が読みたい本」の書架に並ぶ時期です。まずは書架に行き、図書を手にとってください。そして次回はあなたが読みたい本を応募してください。大勢の方からの応募をお待ちしています。

(館員・閲覧係 中澤啓子)

【西生田】

この秋の申し込み一番人気は『朝が来る』、ややや、朝の連続ドラマ「あさが来た」関係資料か、と一瞬ドキリとしましたが、こちらは「学生が読みたい本」で常に人気の辻村深月氏の最新刊でした。

図書館の窓に大きな貼り紙「募集中！」でお馴染みの「学生が読みたい本」、西生田図書館2015年度申し込みは前期120枚、後期144枚と過去最高でした。多数のご応募をありがとうございます。

受付箱を開けるときはいつもドキドキ、ドキリです。申込書からはみ出さんばかりのコメントの情熱を浴びまくり、こんな本があったのかと目からうろこが落ち続け、「卒論用」のコメントにそれなら参考係にすぐ来て欲しかった…と涙を浮かべ、限りある予算に頭を抱え身悶えし唸りながら、最終的には侃々諤々と喚きまくって、そして、購入作業です。しばしのお待ちにご容赦を。

カンカンガクガクの結果、入館ゲート通過10歩(大股)のところに真新しい「学生が読みたい本」が並びます。ふと目に留まった背表紙、手に取ったら引き込まれ、貸出にもう1冊加える…。「学生が読みたい本」の理想が体現される瞬間です。学生のみなさん、読みましょう。学部生は8冊21日間貸出可です。今年度貸出上位(10月中旬現在)は『生き残った者/上橋菜穂子著。(鹿の王;上)』。本屋大賞強し。

(館員・西生田図書館 吉原三紀子)



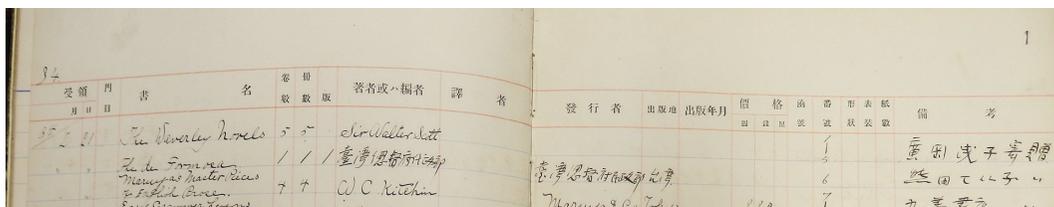
玄関ホール展示「広岡浅子と日本女子大学」について

浜口 都紀

9月25日(金)より、目白図書館および西生田図書館の玄関ホールで「広岡浅子と日本女子大学」の展示を開始した。9月末から放送が始まっているNHK連続テレビ小説「あさが来た」のモデル、広岡浅子(ドラマ中では「白岡あさ」と本学図書館とのかかわりがテーマである。

広岡浅子は京都の三井家に生まれ、大阪の米問屋兼両替商であった加島屋の後継ぎ、広岡信五郎と結婚、維新の動乱期に家業を救うため実業界で活躍した。本学の創始者、成瀬仁蔵がアメリカ視察後に著した『女子教育』に感銘を受け、日本女子大学校設立の最初の後援者となり、多方面の援助をとりつけて本学創立の立役者となった、いわば創立の恩人である。

『図書館だより』No.89の石川松太郎館長(当時)の巻頭言「日本女子大学校豊明図書館」の中で、広岡浅子から本学に寄贈された図書についての記述がある。現在残っているもっとも古い図書台帳の第1冊目冒頭の記載がウォルター・スコットの“Waverley Novels”(全5冊)なのだが、これが広岡浅子からの寄贈図書なのである。(下写真) [日本女子大学豊明図書 図書台帳]第1ページ



この5冊は現在貴重図書となっているが、この他にも台帳には多数の寄贈の記録が残されている。今回、目白では現存している資料(下表)の大部分を展示している。

豊明図書館は本学創立後5年目の1906(明治39)年4月に、初めて独立した図書館棟として建設された。しかし1914年、設置10年を経ずに火災にあっており、この際に蔵書の大部分が水浸しとなった。1923年には関東大震災で建物自体が倒壊するという被害も受けている。現存する創

寄贈月日	書名	著者	出版者、出版年
明治34/2/21	The novels of Sir Walter Scott, Bart. 5 vols.	Sir Walter Scott	Adam and Charles Black, 1859-1862
* 明治35/7/25	Dorothy Forster	Walter Besant	Chatto & Windus, 1888
* 明治35/7/25	A woman-hater	Charles Reade	Chatto & Windus, 1888
* 明治35/7/25	A History of Persia	Robert Grant Watson	Smith, Elder and co., 1866
** 明治35/7/25	The Works of William Makepeace Thackeray. Vol.1-5,9-12	W.M.Thackeray	Smith, Elder and co., 1879~1886

*は今回展示資料、**はvol.1-5のみを展示

立時の資料は更に、第二次世界大戦中の軽井沢疎開を経て現在に伝えられているものであり、表に示した資料以外は過去のいずれかの時点で亡失したものと考えられる。

寄贈された資料の多くがヴィクトリア朝の英文学であるのが興味深い。女性作家の作品が多く、現存していない資料全41点のうち22点を Mary Elizabeth Braddon (1835~1915) の作品が占めている。Braddon はセンセーション・ノベルと呼ばれる、ミステリ仕立ての心理サスペンス小説を数多く執筆した作家である。センセーション・ノベルは娯楽小説である一方、当時産業革命の影響で急速に拡大していた社会的格差や病理、女性の地位の問題などを取り上げることで、社会改革を呼びかける性格ももっていた。この他、バーネットの「小公子」や、英国の外交官による各国歴史、シェイクスピア作品集など多くの資料が寄贈されている。どのような経緯でこれらの図書が選ばれたのかは不明だが、現在に比べればはるかに入手が難しかったであろうこれらの資料を、創立時の学生たちはどのように利用し、何を感じていたのだろうか。

今回はこの他に、ドラマに関連して出版された図書や、浅子が雑誌に寄稿した文章の複製等を展示している。図書館利用の際、足を止めていただければ幸いである。(図書館課長)

日本女子大学学術情報リポジトリの今

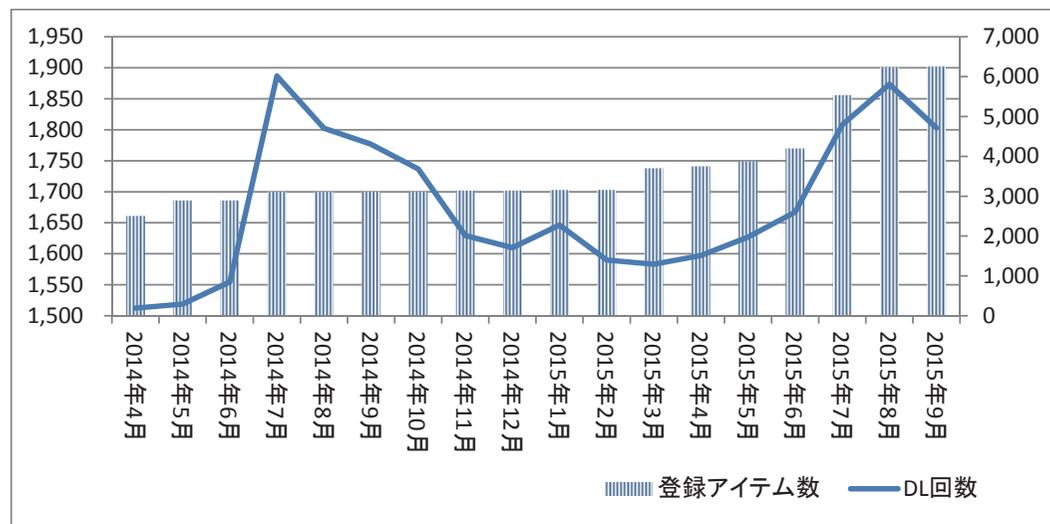
浜口 都紀

『図書館だより』No.148（2013年11月15日発行）で、「日本女子大学学術情報リポジトリ」の試験公開開始の報告をさせていただいた。この年の10月1日より、学内からの閲覧に限った試験公開を開始し、2014年度からの本公開を準備中であること、今後学内から一層のご理解とご協力を得ていきたいという内容である。

2014年4月に予定どおり一般公開を開始した後、リポジトリの英語名称を決定し、図書館運営委員会での複数回に渡る協議を経て運用指針を決め、登録手続きを明文化した。走りながら体裁を整えてきた感もあるが、2014年度内になんとか形にすることができたことを喜びたい。この間、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げる。

公開開始はしたものの、次は学内でのリポジトリの周知を図ると共に、コンテンツを充実させていかなければならない。おかげさまで、各学部の紀要委員の先生方のご協力をいただき、本公開時には学部紀要および一部の研究科と学科の紀要の公開を実現することができた。その後学内での理解も徐々に広がり、継続で登録するタイトルも順調に増えている。一般公開後のコンテンツ数の推移およびダウンロードされた回数を下の表に示した。左軸のコンテンツ数は累積、右軸のダウンロード数は月毎の件数を示す。公開開始後、しばらくの間は登録数が滞っていたが、昨年度末から今年度初にかけて紀要記事の登録が増え、現在は担当者の作業が間に合わないような状況である。

表・リポジトリ登録アイテム数・ダウンロード回数推移



この間、文部科学省からは「学術情報のオープン化の推進について」中間まとめが発表され、公的研究資金による研究成果の共有を一層進めていくとの見解が明らかになっている。今後、各大学の機関リポジトリで発信していくべきコンテンツはますます拡大していくものと考えられる。

コンテンツを利用する側からすれば、大学に所属する研究者の研究成果が、大学のHPでまとめて公開されていることの利点は大きい。今後は、研究者側のメリットが明らかになっていくことが、リポジトリの充実と継続には欠かせないと思う。リポジトリに登録すれば、CiNiiやJAIROなどの他、Google等の検索エンジンの検索対象となり、利用も増えることが期待される。ぜひ、研究成果のアピールにご活用いただきたい。
(館員・リポジトリ担当)

図書館（目白）4階新スペース（ラーニング・commons）のご案内

浜口 都紀

今号の巻頭言でも平館図書館長がご紹介しているとおり、この秋、図書館（目白）の4階に新しい利用者用スペースが誕生する。この号の発行後まもなく運用が開始される予定である。

4階の閲覧スペースは、『図書館だより』No.152で「新しい閲覧スペース」としてご紹介したばかりである。この時は、以前事務スペースであった箇所を改装し、可動式の椅子と机を揃え、無線LANおよびメディアセンター貸出ノートPCの有線LAN接続環境を整えた上での運用開始であった。授業で使われる機会も増え、日常的に利用する学生の姿も定着しつつあるところだったが、このたび本学学生父母の会である泉会よりご支援をいただき、より本格的な能動的学修の場として生まれ変わるようになった。

具体的には、学校現場への導入が進む電子黒板や、グループで大きな画面を見ながら討議のできるディスプレイ付机、卓上投影型プロジェクター、貸出用ノートPC 10台、モバイルプリンタ等の導入が予定されている。これらの機器を使って、グループで授業の発表準備や、プレゼンテーションの練習等ができるよう、グループでの利用優先エリアと、レポートの作成など個人が利用するエリアを設定することになっている。更に、新しい机や椅子が追加され、レイアウトを変更すればセミナーや少人数の授業が行える。先生方にも積極的な活用を働きかけていく予定である。

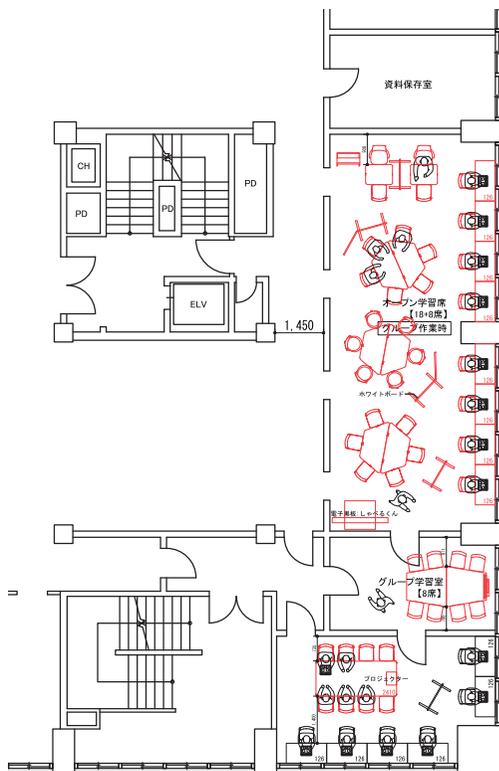
新しい機器や設備が整うことも楽しみだが、もう一つ、今回のプロジェクトで大切なのは、ラーニング・サポーター制度である。学部学生、大学院生が一定時間このコーナーに常駐し、基礎的なPCの操作方法やレポートの書き方への助言、文献収集の方法などをサポートする予定である。

ラーニング・commonsのあり方については巻頭言で詳しく述べていただいているのでここでは繰り返さないが、一義的な目的は「学生の自発的な学習を支援するための場」ということになる。新しい機器、魅力的な家具とともに人的なサポートを提供し、図書館が蓄積してきた膨大な資料をこれまで以上に活用した学習の場として活かせることを願っている。

とは言うものの、利用する学生の皆さんは、特に「予習復習をするための場所！」と決めて来られる必要はない。臆せず機器に触れ、サポーターに相談し、自分のスタイルで利用を始めていただきたいと思う。なお、新スペースの運用開始に合わせて4階の大型本書架周辺のキャレル席に無線LANの利用可能範囲を拡張した。

これまで本学の図書館では、スペースの問題もあって対応しきれなかった新たな学習スタイルが実現することになる。この空間での実践は、将来の新図書館にも反映されていくこととなる。利用の状況、利用した上で感じたこと、今後の希望などについて、アンケートを行うことも考えている。スタッフが直接お尋ねすることもあるかもしれないが、ぜひご意見をおよせいただきたい。

(図書館課長)



完成予想図

平成27年度夏期スクーリング開館について

今年のスクーリング開館は8月3日(月)～8月29日(土)の4週間で、例年同様24日間でした。例年と違うところは、スクーリング開館初日2日目が通学生の前期試験と重なったところです。入館者数・複写枚数がいつものスクーリングに比べ多かったのもこのためと思われます。夏季の節電対策で閉室が多かった5階を今年は久しぶりに開室できました。2階カウンター前のPCだけでなく、5階多目的室のPCも開放しましたので、例年に比べ学習しやすかったのではないのでしょうか。また、コピー機も4階に1台設置しました。



スクーリング期間中の利用風景

今年度の利用状況は左下の通りです。開館時間は<月～金>8:45～19:00、<土>8:45～18:00で、昼休みは当然ですが始業前に来館して登録や貸出する方も多ようです。昨年より夏期スクーリング期間中も通常期と同様にMyJWULISが利用でき、インターネットで貸出図書の期限延長を1回行うことや予約、西生田からの図書の取り寄せができるようになりました。正科生はJASMINEアカウント(通信教育課程のインターネットを通じたシステム(通信教育課程@ Student Service)の利用に必要なアカウント)で

MyJWULISにログインできます。図書貸出冊数も通常期は5冊ですが、夏期スクーリング期間(準備期間含む)は一般図書5冊に加え、通信教育図書室(OPAC配置場所:図目通信)の図書2冊の計7冊貸出可能となりました。2年目をむかえ、通信生の皆さんが慣れてきたように感じられました。

普段はなかなか来館できないと思っていた方も、夏期スクーリング受講を機会に自主的に本学の大学図書館に来館して、より多くの資料に触れ、充実した時間を過ごしていただきたいと思います。

(館員・閲覧係 中澤啓子)

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	H27	H26	H25
開館日数	24	24	24
入館者数	4,719	4,186	4,461
1日平均	196.7	174.5	185.9
最高	676	304	294
最低	123	121	128
受講者数	769	836	931
登録者数	101	175	421
1日平均	4.2	7.3	17.6
更新者数	247		
貸出冊数	1,140	1,340	1,296
1人当たり			3.1
1日平均	47.5	55.9	54
最高	93	114	134
最低	23	25	20
貸出日数	24	24	24
複写枚数	10,774	9,003	9,971
1日平均	449	375.2	415.5
一般学生・教職員 その他の貸出	1,671	1,421	1,374
1日平均	69.7	59.2	57.3

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	H27 (24)	H26 (24)	H25 (24)
一般学生・教職員	35	37	36
スクーリング生・ その他	38	30	41
合計	73	67	77
1日平均	3.0	2.8	3.2

本学図書館第三代館長 木藤才蔵氏(在任:昭和49年4月～昭和53年3月)は、平成26年7月24日に逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記 図書館(目白)4階に新しくラーニング・コモンズが開設される。泉会のご支援に感謝すると共に、新たな学習の場としての活用を期待したい。なお、本号では「学修」を正課授業における学びの意味、「学習」はより広い概念での学びの意味で使っており、あえて統一はしていない。図書館相互利用協定について、今号で概略を紹介し、次号からいよいよ学生の実体験レポートが始まる。楽しみにお待ちいただきたい。(浜口)